序

Patterson & 大坊（2013）によると，それぞれの文化の中には，出来事や行動に関して共有されている暗黙の意味があり，それがスムーズなコミュニケーションの実現に役立っているという。しかし，文化に違いがある場合，共有される意味の少なさから，意思疎通がうまくいかず，誤解が生じることがあり，中でも，自動的になされる非言語コミュニケーションには，大きな認知努力が必要だと述べている。

近年，観光やビジネスでフランスを訪れる日本人旅行者および在フランス日本人数は増加傾向にある[1]。同時に，日本を訪れるフランス人旅行者ならびに留学生数も増加しており，異なる母語，文化を持った者同士がコミュニケーションをする機会も以前より増えている[2]。そのような中で，あまり知られてはいないが，フランス語母語話者の「舌打ち音」が誤解やトラブルの原因となっている。ここでいう舌打ち音とは，日本社会で「舌打ち」と言われ認識されている音のことであるが，一般的に日本人が持つ舌打ちのイメージは「いらだちなどのネガティブな感情を表出する悪癖」である。子どもの頃

1　日本政府観光局（JNTO）の各国・地域別日本人訪問者数［日本から各国・地域への到着者数］（2014 年～ 2018 年）調査（オンライン）によると，フランスを訪れる日本人旅行者は，2014 年の約 78 万人から減少傾向ではあるものの，その後は毎年約 50 万人前後に達している。また，外務省（2018）「海外在留邦人数調査統計」（オンライン）を見ると，2010 年には 2 万 7,020 人だったフランス在留邦人数（留学生も含む）も，2019 年には 4 万 4,261 人に増加している。

2　JNTO の訪日外客数の国籍別データ（オンライン）から，2019 年は統計を取り始めた 1964 年以降，過去最多の 33 万 6,333 人のフランス人が日本を訪れていることがわかる。さらに，日本学生支援機構（JASSO）「2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査結果」（オンライン）からは，日本におけるフランス人留学生数も 1,635 人とヨーロッパ諸国で最も多く，増加の一途をたどっていることがわかる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

から舌打ちは「行儀が悪い」,「相手を嫌な気持ちにさせる」ものであると言われて育った日本人は少なくなかろう。これは日本人のコミュニケーションの根底にある「礼儀作法」に深く関係していると考えられる。『日本大百科全書（ニッポニカ）ジャパンナレッジ』において,「礼儀作法」とは「いざというとき恥をかかないためのもの」と現代では捉えがちであるが,「礼」とはそもそも「温かい真心の具体的な表出」を指し,「人がその社会生活を円滑に営み，社会秩序を保つために用いる規範と実践の総体」であるという記述が見られる[3]。このような「礼儀作法」を持つことが社会的に価値あることであるならば，それに反する舌打ち音そのもの，および舌打ちする人に対して悪い印象を持つことは，日本社会においては当然のことなのかもしれない。

相手が異なる文化を持った外国人であっても，それは変わらず，フランス語母語話者の発する舌打ち音に対して悪い印象を持つ日本人は少なくないようである。それはインターネットのブログなどからも見て取れる。ここで，フランス滞在に関する経験を綴った日本人 3 名のブログの一部を抜粋し，紹介したい[4]。

（0-1）　パリには 1 週間いたが，フランス人は，外国語しかしゃべれない人間に，よその国よりも冷たい。もちろん親切な人も多いよ 男の人の方が親切な人が多かったな。ただ，冷たい態度にであう確率が他の国よりも高いんだなあ。スーパーのレジや，オフィスのカウンターなどでフランス語で話され，英語で聞き返すと，舌打ちが返ってきたりする「舌打ちはいらんから，はよ釣り銭を返せ」とフランス語で言い返せたらどれだけ気持ちいいことだろう！！[5]

（0-2）　それから，気になることは舌打ち。フランスに行って，ショックだったのは，他人の前で堂々と舌打ちをする彼ら！（郵便局でまご

3　“礼儀作法”，日本大百科全書（ニッポニカ），ジャパンナレッジ（オンラインデータベース），入手先 <http://www.jkn21.com>,（参照 2020-6-14）

4　全て原文ママ。

5　入手先 <http://sekatyoku.blog46.fc2.com/blog-date-20091008.html>,（参照 2020-6-14）

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

まごしてたりすると，窓口の人から「チェッ！」とか）それまでの舌打ちのイメージは，悪の世界の悪い人（どんな世界だ）がする行為だと思っていたし，女の人がするとかってショックでした[6]。

（0-3） 私がフランスに住み始めて，最初にびっくりしたことは舌打ちする音をしょっちゅう聞いたことだった。上品そうなマダムが，レジで店員さんのミスに舌打ち学校の先生も DR も，人前で堂々と（？）舌打ちする。人のミスにも自分のミスにも舌打ち。“これって，品がないよね？”っていつも思っていたっけ[7]。

（0-1）はフランス人店員の舌打ちを聞いたことで「フランス人は冷たい」という印象を持ち，（0-2）は特にフランス人の「女性」の舌打ちを聞いてショックを受けている。（0-3）は見た目や職業に関係なく誰もが舌打ちをすることに驚き，またその行為をするフランス人に対して「品がない」という評価を下している。

前述の事例は，フランス人の発した舌打ち音を，日本人が日本語のいわゆる舌打ちとして，日本語のコミュニケーションルールで解釈した結果である。舌打ち音自体を不快に思うだけでなく，「フランス人は冷たい」という一般化がなされたり，その音を発する人に「品がない」といったマイナス評価が一方的に付与されたりしたと考えられる。要するに，この舌打ち音は一部の日本人とフランス語母語話者とのコミュニケーションにおいて，単に日本人を不快にさせるだけではなく，フランス語母語話者の印象も悪くするという，互いに不利益しか及ぼしていない要素と言える[8]。

しかしながら，フランス語母語話者が談話において発するこれらの舌打ち音は，日本社会で一般的にイメージされる相手に対するいらだちの感情の表出としての「舌打ち」ではなく，それとは異なった用法，機能があるというのが本書における筆者の主張である。これまで単なる個人の悪癖や雑音とし

6 入手先 <http://apetitspasc.blog104.fc2.com/blog-entry-345.html>，（参照 2020-6-14）

7 入手先 <http://hawaiiparis.blog90.fc2.com/blog-entry-35.html>，（参照 2020-6-14）

8 本研究において「フランス語母語話者」とは，国籍に関係なく，フランス語を母語とする者を指す。一方「フランス人」とは，フランス国籍のフランス語母語話者，「日本人」は日本国籍の日本語母語話者を指す語として用いる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

か捉えられてこなかったからか，ほとんど研究されていないが，フランス語の舌打ち音を言語学的観点から検証し，明確に記述することで，今後の日本人とフランス語母語話者間の良好な人間関係の構築に寄与できればと思っている。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

目　次

序 i

第 1 章　研究の対象・目的・方法 1

1.1　研究の対象と目的 1
1.2　研究方法 5
1.3　リサーチクエスチョン 6
1.4　本書の構成 7

第 2 章　舌打ち音―先行研究およびフィラーとの関係― 9

2.1　はじめに 9
2.2　舌打ち音 9
2.2.1　日本語の舌打ち音 9
2.2.2　フランス語の舌打ち音 12
2.2.3　他言語の舌打ち音 15
2.2.4　まとめ 17
2.3　フィラー 17
2.3.1　日本語のフィラー 17
2.3.1.1　山根（2002），中島（2011） 18
2.3.1.2　小磯，西川，間淵（2006） 22
2.3.1.3　川田（2008） 23
2.3.2　フランス語のフィラー 24
2.3.3　本研究におけるフィラーの定義 26

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 3 章　研究目的別調査 29
3.1　はじめに 29
3.2　調査 1：ストーリーテリングに現れる舌打ち音調査 30
3.2.1　調査目的 30
3.2.2　調査対象 30
3.2.3　調査方法 31
3.2.4　調査結果と考察 32
3.3　調査 2：地下鉄での行き方案内に現れる舌打ち音調査 33
3.3.1　調査目的 33
3.3.2　調査対象 34
3.3.3　調査方法 34
3.3.4　調査結果と考察 35
3.4　調査 3：フランスとベルギーのメディアに現れる舌打ち音調査 37
3.4.1　調査目的 37
3.4.2　調査対象 38
3.4.3　調査方法 38
3.4.4　調査結果 38
3.5　調査の分析とまとめ 40
3.5.1　舌打ち音の用法に関する仮説 40
3.5.2　情報処理あるいは言語表現処理 41
3.5.3　境界設定 46
3.5.4　発見 47
3.5.5　発話権の取得／保持 47
3.6　まとめ 50

第 4 章　ESLO コーパスを用いた舌打ち音調査 51
4.1　はじめに 51
4.2　ESLO コーパスとは 51
4.3　コーパスを用いた舌打ち音研究の前に 53
4.3.1　コーパスの選択と使用について 53

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

4.3.2　舌打ち音の検索の仕方と抽出 55
4.3.3　研究対象外の [bb] 56
4.4　調査 4：舌打ち音の社会言語学的調査 57
4.4.1　調査目的 57
4.4.2　調査対象 57
4.4.3　調査方法 62
4.4.4　調査の結果と考察 62
4.5　調査 5：舌打ち音の社会的価値と解釈に関する調査 68
4.5.1　調査目的 68
4.5.2　調査対象 69
4.5.3　調査方法 69
4.5.4　調査の結果と考察 70
4.5.4.1　大学生への調査の結果と考察 70
4.5.4.2　研究者への調査の結果と考察 72
4.6　調査 6：舌打ち音の通時的調査 73
4.6.1　調査目的 73
4.6.2　調査対象 73
4.6.3　調査方法 74
4.6.4　調査の結果と考察 74
4.7　まとめ 75

第 5 章　コーパスにおける舌打ち音の出現と頻度 77

5.1　はじめに 77
5.2　調査対象 78
5.3　調査方法 79
5.4　調査の結果と考察 80
5.4.1　モノローグの文脈における分布 80
5.4.2　ダイアローグの文脈における分布 87
5.5　まとめ 91

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 6 章　舌打ち音の用法と機能 93
6.1　はじめに 93
6.2　話者の情報処理および言語表現処理状況の表出機能 94
6.2.1　語あるいは表現の検索 95
6.2.2　内容検索 97
6.2.3　ためらい 98
6.3　シンタックスによって調整された談話構成 99
6.3.1　境界設定 99
6.3.1.1　話題転換 99
6.3.1.2　開始 101
6.3.1.3　終了 103
6.3.1.4　順序（時間／言説） 103
6.3.2　展開 105
6.3.2.1　対立 105
6.3.2.2　提示表現 106
6.3.2.3　説明 109
6.3.2.4　訂正 112
6.3.2.5　添加 115
6.3.2.6　結論 121
6.4　働きかけの機能 124
6.4.1　判断（同意／否定） 125
6.4.2　質問／答え 130
6.4.3　確認 135
6.4.4　婉曲語法 138
6.5　まとめ 141

第 7 章　フランス語話し言葉における舌打ち音とは？ 143
7.1　フィラーとの比較 143
7.2　舌打ち音の特徴 148
7.3　まとめ 154

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 8 章　日本人フランス語学習者と舌打ち音 155
8.1　はじめに 155
8.2　調査 7：学習者の渡仏前後の舌打ち音認知調査 158
8.2.1　調査目的 158
8.2.2　調査対象 158
8.2.3　調査方法 159
8.2.4　調査結果 160
8.2.5　結果の分析と考察 162
8.2.6　仮説 164
8.3　調査 8：フランスの日本人留学生の舌打ち音認知調査 165
8.3.1　調査目的 165
8.3.2　調査対象 166
8.3.3　調査方法 169
8.3.4　調査結果の分析と考察 170
8.4　調査 9：フランス長期在留邦人の談話における舌打ち音調査 174
8.4.1　調査目的 174
8.4.2　調査対象 174
8.4.3　調査方法 174
8.4.4　調査結果の分析と考察 175
8.5　外国語教育への提言 180
8.6　まとめ 181

第 9 章　結論 183

あとがき 189
参考文献 191
資　料 197
索　引 245

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 1 章

研究の対象・目的・方法

1.1　研究の対象と目的

我々が音声を介してコミュニケーションを行う際，時間的な制約を大きく受ける。相手から依頼や問いかけがあれば，返答内容に関わらず，限られた時間の中で何をどのように言うか考え，即時に対応することが，社会的に良好な人間関係を維持するために求められるからである（森，前川，粕谷 2014）。しかし，考えがまとまらない，あるいは，言いたいことが言葉にならないことも少なくない。このような状況で，日本語談話においては「えー」「あのー」を始めとするさまざまなフィラーを発して間をつなぐ[1]。

Candea（2000）によると，フランス語談話においてはこのような状況下で [ə]，[ø]，[œ] などと発音される euh，最後に発した語の最終音節母音伸ばし，次に言いたい語の繰り返しなどが表出される。ところが，実際のフランス語母語話者の談話において，同様の状況下で頻繁に発せられているにも関わらず，全く研究されていない音がある。それが本研究の研究対象である「舌打ち音」である。舌打ち音は日本人旅行者や日本人フランス語学習者の一部の者を悩ませ，フランス語母語話者とのコミュニケーションにおける誤解の原

1　フィラーに関する詳細は第 2 章参照。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第2章

舌打ち音

先行研究およびフィラーとの関係

2.1　はじめに

本研究では，舌打ち音とフィラーにはいくつかの共通点があると同時に相違点もあると考える。そのため，舌打ち音だけでなく，フィラー研究の見地は必要不可欠である。また，同様のコンテクストで現れる事象であれ，言語によって明らかにされていることが異なるため，本章では，日本語，フランス語，その他の言語の舌打ち音と，日本語とフランス語のフィラーに関する先行研究を概観し，それぞれの共通点，相違点，問題点を検討する。

2.2　舌打ち音

本節では「舌打ち」または「舌打ち音」に関する先行研究を，日本語，フランス語，その他の言語の順に概観する。

2.2.1　日本語の舌打ち音

まず，いくつかの身近な国語辞典で日本語における舌打ちならびに舌打ち音の定義を調べてみると，次のようにまとめられる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 3 章

研究目的別調査

3.1　はじめに

本章では，筆者自身が録音，書き起こしなどをして収集したデータに基づいた調査をまとめる。実例を挙げた分析・考察をおこなうことで，舌打ち音の用法，機能に関する仮説を立てる。具体的には，フランス人初級日本語学習者を対象とした母語と日本語による「ストーリーテリングに現れる舌打ち音調査（調査 1）」，フランス人の母語による「地下鉄での行き方案内に現れる舌打ち音調査（調査 2）」，「フランスとベルギーのメディアに現れる舌打ち音調査（調査 3）」，という 3 つの調査である。

なお，実例の表記に関して，ポーズ・音声の長さは Jefferson（2004）が開発した共通転記記号の一部を用い，視覚化する。独自のルールも採用するため，次の表 3.1 を本書における転記記号ルールとする。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第4章

ESLO コーパスを用いた舌打ち音調査

4.1　はじめに

これまでおこなってきた調査にはデータ量が少ないという問題点があった。それを解決するために，本研究ではフランス語の話し言葉コーパスである ESLO コーパスを使用する。本章では本研究で使用する ESLO コーパスの特徴，本研究に使用する意義と問題点，舌打ち音をどのようにコーパスから抽出するのかについて述べる。また，研究対象の舌打ち音と対象外の舌打ち音に関しても明示した上で，コーパスを用いた舌打ち音に関する社会言語学的調査，社会的な価値と解釈に関する調査，通時的調査，について記述する。

4.2　ESLO コーパスとは

本節では，本研究で用いるフランス語の話し言葉コーパス，ESLO コーパスに関する概要を記す[1]。

このコーパスは大きく ESLO1 と ESLO2 の 2 種類に分けられる。1968 年から 1974 年にかけ，フランスのオルレアン在住のさまざまな属性のフランス人にインタビューし，録音するという ESLO（Enquête Socio-Linguistique

1　ESLO（オンライン），入手先 <http://eslo.huma-num.fr>，（参照 2017-8-4）

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 5 章

コーパスにおける舌打ち音の出現と頻度

5.1　はじめに

本研究の開始当初は，筆者自身が録音，書き起こしなどをして収集したデータを中心に観察していたが，一般化できるだけの十分なデータ数だとは言えないという問題点があった。本章では，第 3 章で立てた舌打ち音の用法・機能に関する仮説を再検討するために，ESLO2 コーパスを用い，舌打ち音の生起環境を確認し，どのようなルールに基づいて出現するのかを明らかにする。これまでの調査で，ダイアローグ（対話）特有の用法があると考えられるため，モノローグ（独話），ダイアローグに分けて，舌打ち音に関する生起環境を調査する。

モノローグの音声データは 6 名の話者による講演，計 2 時間 40 分 38 秒であり，ダイアローグは異なり話者数 11 名のインタビュー計 6 時間 3 分 25 秒，合計 8 時間 44 分 3 秒である。やむをえずモノローグとダイアローグデータの比率に差が出てしまったのは，そもそも公開されている講演データ数がインタビューデータ数よりも少ないからである。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 6 章

舌打ち音の用法と機能

6.1　はじめに

第 4 章，第 5 章において，コーパスのデータを概観してきたが，実際フランス語の舌打ち音にはどのような用法，機能があるのだろうか。第 5 章で生起環境を確認し，第 3 章で立てた仮説を再検討するため，調査結果全体を俯瞰し，共通点によって分類するという作業を繰り返した。最終的に，内省的な「話者の情報処理および言語表現処理状況の表出機能」，談話を順序立てて，あるいは論理的に組み立てていく「シンタックスによって調整された談話構成」，聞き手目当てな「働きかけの機能」の 3 つの機能に類別した[1]。

本章では，まず「話者の情報処理および言語表現処理状況の表出機能」の「語あるいは表現の検索」，「内容検索」，「ためらい」について，次に「シンタックスによって調整された談話構成」の「境界設定（話題転換，開始，終了，順序）」，「展開（対立，提示表現，説明，訂正，添加，結論）」，最後に「働きかけの機能」として「判断（同意／否定）」，「質問／答え」，「確認」，

1　談話によってはオルレアン在住のフランス語母語話者にしかわかり得ない内容が含まれていた。よって，コンテクストの確認および用法の分類に関して，オルレアン大学の Gabriel Bergounioux 教授の助言・協力を得たが，本研究の内容に関する一切の文責は筆者にある。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 7 章

フランス語話し言葉における舌打ち音とは？

7.1　フィラーとの比較

これまでの分析で，フランス語の話し言葉における舌打ち音はフィラーや感動詞と共起する頻度が高く，これらといくつかの共通点があることがわかった。本節では，第 2 章で述べたフィラーの特徴と，フランス語談話に見られる舌打ち音を比較し，その共通点ならびに相違点を 3 つの観点から整理したい。

1 つ目は，その産出が自己意志に基づくか否か，その行為をおこなうことが意識的か否かということである。換言すれば，前者は随意的か不随意的か，後者は意識的か無意識的かに分類できる。そこに聞き手による受容が意識的か，無意識的かという項目を加え，くしゃみ，言い間違い，言語情報なども含め，フィラー，舌打ち音をまとめると，次の表 7.1 のようになる。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第8章

日本人フランス語学習者と舌打ち音

8.1　はじめに

これまでフランス語の舌打ち音には，日本語のそれとは異なる機能と用法があることを明らかにしてきた。序章で，インターネット上に綴られた舌打ち音を巡る日本人とフランス語母語話者のコミュニケーションにおいての誤解の例をいくつか挙げたが，実際に筆者の周りでも舌打ち音が原因でトラブルが起きている。

例えば，以前「フランス人の友人がほしいから紹介してほしい」とある日本人女性に頼まれ，筆者は友人であるフランス人男性にその女性の電話番号を渡したことがある。彼は早速日本人女性の携帯に電話をかけたが，留守番電話になったため「また電話します」とメッセージを日本語で残し，それからも何度か電話をかけたらしい。しかし，結局その日本人女性は電話に出ることも，折り返しかけてくることもなく，会うこともなかったらしい。なぜフランス人の友人がほしいと懇願しておきながら電話を無視したのか，その理由を後日，その女性に聞いてみた。すると，フランス人男性が舌打ちをした後に「また電話します」というメッセージを残しており，「感じが悪い人だ」という印象を持ったからだということだった。これはこの女性がフランス人男性の発した舌打ち音を聞き，自分が電話に出なかったことへのいらだ

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第9章

結論

本章では，本研究全体のまとめと，今後の研究の展望について述べたい。本研究では，フランス語母語話者の談話において，フィラーのように頻繁に現れる「舌打ち音」に焦点を当て，言語学的観点，異文化間コミュニケーションの観点から考察をおこなった。

序章ではその研究背景を述べ，第1章で次の4つのリサーチクエスチョンを立てた。

1）フランス語における舌打ち音の生起環境はどのようなものか。
2）フランス語の舌打ち音は個人的な癖なのか，一般的なものなのか。
3）フランス語の舌打ち音の用法，機能は何なのか。
4）舌打ち音の認知が人によって異なるのはなぜなのか。

第2章では，日本語，フランス語，その他の言語における舌打ち音研究を概観し，そもそも日本語の「舌打ち」と同等の語がフランス語にないこと，談話における舌打ち音に関する研究は，英語においては既にある程度の蓄積があるものの，フランス語では十分な研究がなされていないことを明らかにした。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers